

# 学校点描

ご退職なされるN校長先生が、司  
会者用演台を寄贈されました。合  
唱用の台も一緒です。

《M中学校》

完 H29. 3. 13

担当：教頭

3月1日は、M中学校歴代PTA会長会を開催しました。その席上で、「M中生の運動や文化面での頑張り聞くにつけ、私たち元PTA会長としても何か応援しようじゃないか」という提案がなされ、1口5000円の寄付金を毎年積み立てて、遠方への大会等の際に保護者の負担を軽減するために使うことが満場一致で決まりました。会を進行していた私も、いきなりの提案でびっくりでしたが、わが子が卒業した後も、町1つの中学校を応援しようというお気持ちに感謝の気持ちでいっぱいです。

毎年校長先生が行っていた、『6年生の様子を見に行く小学校訪問』を、本年度は教頭のわたしがすることになりました。5時間目に小学校6年生の授業を見て、その後に中学生になる心構えの話をするという流れです。新入生オリエンテーションでも話したわけですので、同じ話はできません。6年生の教室に入ると、「ようこそ」と歓迎してくれている目で挨拶してくれる児童がいます。「この人、何者だ？何を話しにきたんだ？」というような目でこちらの正体を見抜こうという目もあります。どちらにしろ、4月からは本校の中学生です。

10日は、公立高校入試が行われました。雪の舞う寒い1日でした。受験する3年生が無事に試験会場に入ったという連絡が、3学年主任のO先生に入ってきます。O先生も朝6時過ぎから、職員室で待機しています。本校は、近郊なら試験開始前と終了後に、先生達の分担を決めて、高校の玄関先で出迎えることにしています。夕方、S南高校の玄関で待っていると、わたしを見つけてホットした顔のM中生徒たちが校舎から出てきました。「それぞれ今日までがんばったんだね。不安な日を過ごしてきたね。」そう思うとなんだか泣けてきちゃいました。

15の春を目指した最後の試験が無事終了しました。

## やるじゃん！

いつだったか出張で、ある大都市まで仕事をしてきたときのことで。

混雑する駅のホームの階段を上っていると、わたしのいる場所より、ずっと下の方でちょっと乱暴な女性の声が聞こえます。「ちょっと！つぶされちゃうじゃん！押すなよ！！」見ると、茶髪に数個のピアス、いまだき風の十代の女の子が手すりにつかまりながら怒っているんです。彼女が体を張ってガードし、人ごみに押されないように守っているのは一人のおばあさんでした。

そして、やっとのことで階段の上までおばあさんを押し上げると、彼女は、何事もなかったように友人と去っていきました。

本当に強い子って言うのは、こんな子なのかもしれないと思いました。誰が見ていようと見てまいと、自分の信念で行動する。自分はこうするんだというその考えが、どんな場でも全然ぶれない。意外に、現代は、強い子が増えているのかもしれない。

2月の下旬から、3月の中旬にかけて、町内小学校6校を訪ねました。小学校訪問を行うためです。小学生を前にかしこまった物言いをする講話みたいなのが苦手なわたしは、絵や写真を見せて授業をすることにしました。『想像力こそが、中学時代を生き生きと生き抜くための最大の力』というのが、この授業のテーマです。小学生用に作る時間がなかったので、前にM中の中学生に行った授業を少し変えて行ってみました。

授業の後半に、1枚の絵を見てもらいます。

わたし：「この絵からわかることは何？」

児童：「人が、ふたりいるんじゃないかな？」

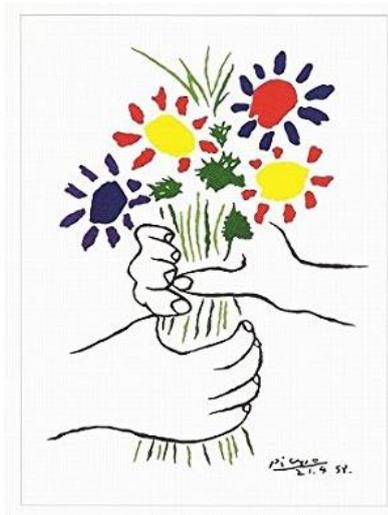
わたし：「どうして？」

児童「ひとりで絵のようには持てません」

わたし：「じゃあ、この絵はどんな場面の瞬間を描いているのか想像してみてください」

どの小学校の児童たちも一生懸命、授業に参加してくれました。二人の女の子が花を取り合っている場面と考えた女兒。二人で「せ〜の」の掛け声で花瓶にさす瞬間だと話した男児。卒業式の日の後輩から先輩に渡したところだと考えた女兒。想像はどんどん膨れ上がります。

わたし：「では、2つの事実を加えてから考えてください。その1、この絵はピカソが描いた絵です。その2、第二次世界大戦後の最初の国際会議で発表された絵です。」



ひとしきり、小学生の考えを聞いた後、わたしは、この絵の授業を中学校でしたときの中学生Aさんが抱いたイメージを紹介しました。

『この絵は野原に名も知れず咲いていた花を、ひとりの少女が摘んで、機関銃を肩からかけたひげ面の戦闘員である男性に渡しているんです。花束をもらった男性は野原に機関銃を投げ捨て、にっこり笑顔になって少女から受け取った瞬間です。少女は左側、男性は右側。だって花束を渡す人は、花束の下をもって渡すでしょ。』

Aさんが思い描いたイメージに、小学6年生は思わずうなずきます。「中学生ってやるなあ」って顔をして。

一緒に暮らしていないと、中学生の良さは、きっと地味でわかりにくいものかもしれません。でも、思わず口からでる、この「やるなあ」とか「やるじゃん」という言葉が、中学生の良さを一番うまく言い表しています。中学生が見せる「やるじゃん」を埋もれさせてはなりません。

おばあちゃんを助け終わった、あの今風の女の子とその友人が、先にいるわたしの方にどんどん向かってきました。そこは、やっぱり女の子、ぺちやくちやくちやくちやおしゃべりして来ます。ちょっとわたしも、そば耳を立てて彼女たちの会話を聞いてみたんです。

友人の子が、おばあちゃんを助けた子に言います。

「〇〇って、ホント、世話好きだよねー。」

すると、あのおばあちゃんを助けた女の子、

「わたし、ばあちゃん子だったし、ばあちゃん私のこと、超かわいがってくれたんだ・・・。」と。

すると、わたしと2人の女の子の近くに、さっきの行動を傍でみていたであろう、これまた超今風の若者が声をかけて走っていきました。

なんて言ったかって？

もう、わかるでしょ。あの言葉ですよ。

『やるじゃん!』です。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。